

# 第69回都市計画全国大会 (岩手県)

## ▶盛岡城跡公園周辺地区 都市再生整備計画事業（盛岡市）

城下町盛岡の象徴である「盛岡城跡公園」をはじめとする歴史文化施設と一体的に整備した観光交流センターと、地区周辺の回遊性やアクセス向上を高めるために実施した電線地中化と歩道整備等により、本地区は「盛岡城跡公園」を中心に歩いて楽しむ環境の創出が図られてきました。また、人々が交流する賑わいの拠点として、様々なイベントを通して地元住民と観光客の交流に寄与しています。



## ▶紫波中央駅前地区 都市再生整備計画事業（紫波町）

紫波町では、町民ニーズの高い図書館や老朽化の著しい役場庁舎などの課題に対応するため、公民連携手法による町有地活用調査や町民意見交換、市場調査等を踏まえて公民連携基本計画やオガール・デザインガイドラインをまとめ、定住・交流人口の拡大や地域財を地域の人が生かすような域内経済循環の仕組みを取り入れた民間主導型のまちづくり「オガールプロジェクト」が進められています。



## ▶平泉周辺地域の景観形成（平泉町）

平泉町、一関市及び奥州市では、ユネスコへの世界遺産登録推薦書提出（平成18年）の際に史跡周辺の開発等に対する景観の保全を目的とした市町村による規制制度整備が必要とされたことから、その趣旨を踏まえた条例等を制定し、主体的に運用を図っています。また、歴史的景観地区内の都市計画道路等の整備に当たっては、奥州藤原文化を象徴する中尊寺や毛越寺へのアクセス道路として、古都平泉に相応しい街路景観の形成に配慮しながら整備を進めたことにより、地域イベントの盛り上がりにも寄与しています。





### ▶ 田老地区防災集団移転促進事業 田老地区土地区画整理事業（宮古市）

宮古市北部の田老地区は、過去に何度も津波による被害を受け、そのたびに復興を成し遂げてきました。昭和三陸地震津波後に万里の長城とも呼ばれた防潮堤を築き、毎年欠かさず津波避難訓練を行うなど、ハード・ソフトともに津波対策を実施してきましたが、東日本大震災津波により、またもや壊滅的な被害を受けました。

宮古市では、二度と津波による犠牲者を出さないという決意のもと、市民主体の計画づくりを行い、その計画を基に市街地山側の嵩上げと山林を切り開き高台に住宅団地を整備する復興まちづくり計画を策定しました。その後も個別面談等によるきめ細かな情報提供を続け、事業を通じて大きな反対や計画の変更が生じることがなく、また、事業実施ではCM方式を採用し、急ぐ箇所から設計を行い施工に反映する設計施工一体となったロスの少ない事業展開を行ったことにより、約3年で事業が完了し復興が目に見える形で進んでいます。



### ▶ 鉾ヶ崎地区・光岸地地区土地区画整理事業（宮古市）

鉾ヶ崎・光岸地地区は、海路と陸路の交通結節点に位置することから、宮古市の玄関口として歴史・文化を継承した街並みが形成されていましたが、東日本大震災津波により壊滅的な被害を受けました。このため、被災者の早期の生活再建や主要産業である漁業・水産加工業等の再生に向けて、土地区画整理事業を実施することにより、道路・公園等の公共施設を整備改善するとともに、安心・安全に暮らすことのできる健全な市街地を一体的に整備し、震災からの早期の復興を図っています。



### ▶宮古市中心市街地津波復興拠点整備事業（宮古市）

宮古市は、東日本大震災津波により、市庁舎、保健センターをはじめとする公共施設が浸水し甚大な被害を受けたため、救援、復旧活動に大きな支障が生じました。このことから、今次津波でも浸水しない中心市街地に市庁舎をはじめとする公共施設を移設し、地域コミュニティの維持、発展に資する施設と一体的に整備することにより、東日本大震災津波と同等の津波が発災した場合においても都市機能を確保しようとするとともに、あわせて、利便性や効率性の高い街なか居住を推進しようと事業を進めています。



### ▶高田地区被災市街地復興土地区画整理事業（陸前高田市）

陸前高田市は、東日本大震災津波により市内の99.5%の世帯が被災し、人的被害も県内最悪の被害を受けました。市は、この恐ろしい経験から津波防災、減災への教訓を受け止め、一刻も早く市民が安心して暮らし、働くことのできるまちづくりを行うため、陸前高田市震災復興計画を策定し、復興事業に取り組んでいます。

高田地区被災市街地復興土地区画整理事業は、東日本大震災津波の復興事業の中でも最大規模となる土地区画整理事業で、津波の浸水をはるかに超える高さに嵩上げ（最大盛土12.3m、平均盛土7.4mの嵩上げ盛土）して市街地の復興を目指しています。土砂運搬に全長3kmのベルトコンベヤを用いるなどの取組により事業の加速化を図り、この4月には嵩上げ工事を進めた中心市街地に大型商業施設「アバッセたかた」と「まちなか広場」がオープンするなど、新しい市街地の形が現れはじめています。





### ▶高田松原津波復興祈念公園整備事業 (陸前高田市)

東日本大震災津波の被災前、7万本の松と白い砂浜で白砂青松と評された名勝「高田松原」周辺は、道の駅「高田松原」、県営野外活動センター、市営「海と貝のミュージアム」や各種運動場があり、賑わいや文化・スポーツの中心として、市民をはじめ、たくさんの方々に親しまれていました。

巨大な津波に耐えた「奇跡の一本松」はモニュメントとして生まれ変わり、復興のシンボルとしての役割を果たしています。この「奇跡の一本松」を含む約130haの区域は、復興祈念公園として、国、県及び市が連携して整備するものであり、東日本大震災津波による犠牲者への追悼と鎮魂、震災の実情と教訓を踏まえた津波防災文化の継承、歴史的風土と自然環境の再生、市街地の再生と連携したまちの賑わいの創出により、復興への強い意志と力を国内外に発信していくものです。



### ▶大船渡駅周辺地区被災市街地復興土 地区画整理事業 (大船渡市)

大船渡駅周辺地区は、重要港湾大船渡港に隣接した中心市街地で、気仙地域の商業拠点になっていましたが、東日本大震災津波により壊滅的な被害を受けました。このため、大船渡市の中心地区として復興を目指すとともに、地区内にあるJR大船渡線より西側では盛土を行い安全・安心な住宅地を整備し、JRより東側の非居住区域では商業業務施設の集積と産業エリアを整備しており、目に見える形で復興が進んでいます。

当地区は、事業完了後のまちづくりの持続性・発展性の確保、多くの人で賑わうまちとしていくため、エリアマネジメントを導入しており、その中心的な役割はまちづくり会社が担うこととしています。

